



コミュニティ・スクールだより

学校運営協議会のさらなる活性化をめざして

各小・中学校の学校運営協議会では熟議の場が多く設定され、教職員や児童生徒が参加する熟議も行われています。熟議では、地域・学校課題の解決や協働活動の充実、学校・地域連携カリキュラムの見直し等をテーマに、参加者は積極的に意見・アイデアを出し合うなど、どの学校も活発な取組となっています。

熟議の進め方について～「ブレインストーミング」と「KJ法」の活用～

各学校が行う定例の学校運営協議会において、熟議を行う際、その形として「KJ法」が用いられています。学校によっては、より協議が深まるように視点を絞って行うといった工夫もされています。

ここで、「KJ法」とその前段階である「ブレインストーミング」について解説します。

【ブレインストーミング】

設定されたテーマについて、各自が意見・アイデアを書き出す活動のことで、これにより、個々の考えや情報等の洗い出しをし、異なる立場の人から多角的な意見・アイデアを収集できます。手順として、「意見・アイデアを発想し、量産する作業」と「量産した意見・アイデアをまとめる作業」があります。

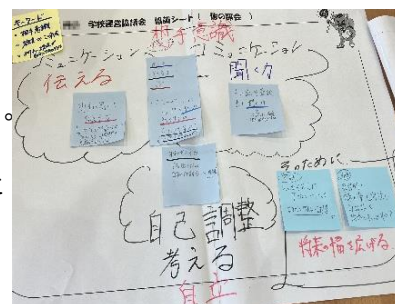
《4つのルール》

- ①自由に発言する ➡ 多くの意見・アイデアを出す
- ②意見・アイデアを批判せず、判断、決断しない ➡ 自由な発言を促す
- ③意見・アイデアを組み合わせる ➡ 新たな意見・アイデアの発想、発展につなげる
- ④質より量を重視する ➡ 多くの意見・アイデアを出す（量を意識）



【KJ法】

- ステップⅠ：意見・アイデアを書き出す（ブレインストーミング）。
 ステップⅡ：意見・アイデアをグループ化し、タイトルをつける。
 ※類似したグループをつなげ、より大きなグループへとまとめていく。
 ステップⅢ：関係性を図解化する（矢印、記号を用いる）。
 ※意見・アイデア、情報を整理し、関係性を見いだすとともに、新たな意見・アイデアを創出するための重要なステップとなる。
 ステップⅣ：意見・アイデアのシェアリング（共有）。
 ※文章化し、要点を簡潔に説明できるようにする。



今後、熟議を行う際に、より内容の濃い充実したものになるよう、テーマの設定や1グループの人数・メンバー構成、配当時間等を工夫してみるとよいと思います。

第2回宇部市コミュニティ・スクール推進協議会を開催

9月18日（木）に、コミュニティ・スクールを周知するためのチラシの紙面について協議を行いました。これまで、市民のコミュニティ・スクールへの理解、及び周知が重要な課題となっており、協働活動への参画も含めた対応策として、委員から出た意見をもとにチラシを完成させ、12月に市内全戸へ配付する予定です。

